

講演する山川准教授



め約80人が
参加した。

同協議会
は糸島地域
の農業者、
JA糸島、
九州大学大
学院農学研
究院、糸島
市、福岡普
及指導セン
ターで構成
する。ワー
クショップ
は回を重ね
ることに参
加者が増え
続けている
。

九州大学
大学院農学

土づくりで講演 ワークショップ

糸島農産学官連携協

【糸島】糸島農産学官連携推進協議会（通称「アグリコラボ」として）がこのほど、九州大学伊都キャンパスで「土を知ろう」をメインテーマに第5回ワークショップを開いた。施肥など土づくりを中心に学んだ。生産者に身近な内容のた

研究院の山川武夫准教授が「土の健康を保つための圃場（ほじょう）管理と竹堆肥・液肥等の利用」と題して、同岩堀英晶客員准教授が「土の中の小さな生き物・線虫―その知られざる多様性と農業との関わり」と題して講演した。

山川准教授は良い土とはバランスが良い土のこととし、有機物がよく分解され、肥料を保つ力が

あり、土が軟らかく水はけが良いことなどの条件を挙げた。また、地方の高い土をつくるための有機物の有用性や注意点、炭素率などについて説明した。

岩堀客員准教授は農業と関わりの深い線虫の種類や線虫防除の手順を説明。線虫の天敵を守る土壌生物の豊かな土づくりを提案した。

質疑応答では「竹チップを畑に入れていいか」「線虫はどのタイミングで出てくるのか」など参加者から多くの質問が出た。

2012年3月31日

日本農業新聞（12面）